

広国市民大学 2023年度ゼミナール

第1回：講義・演習テーマ

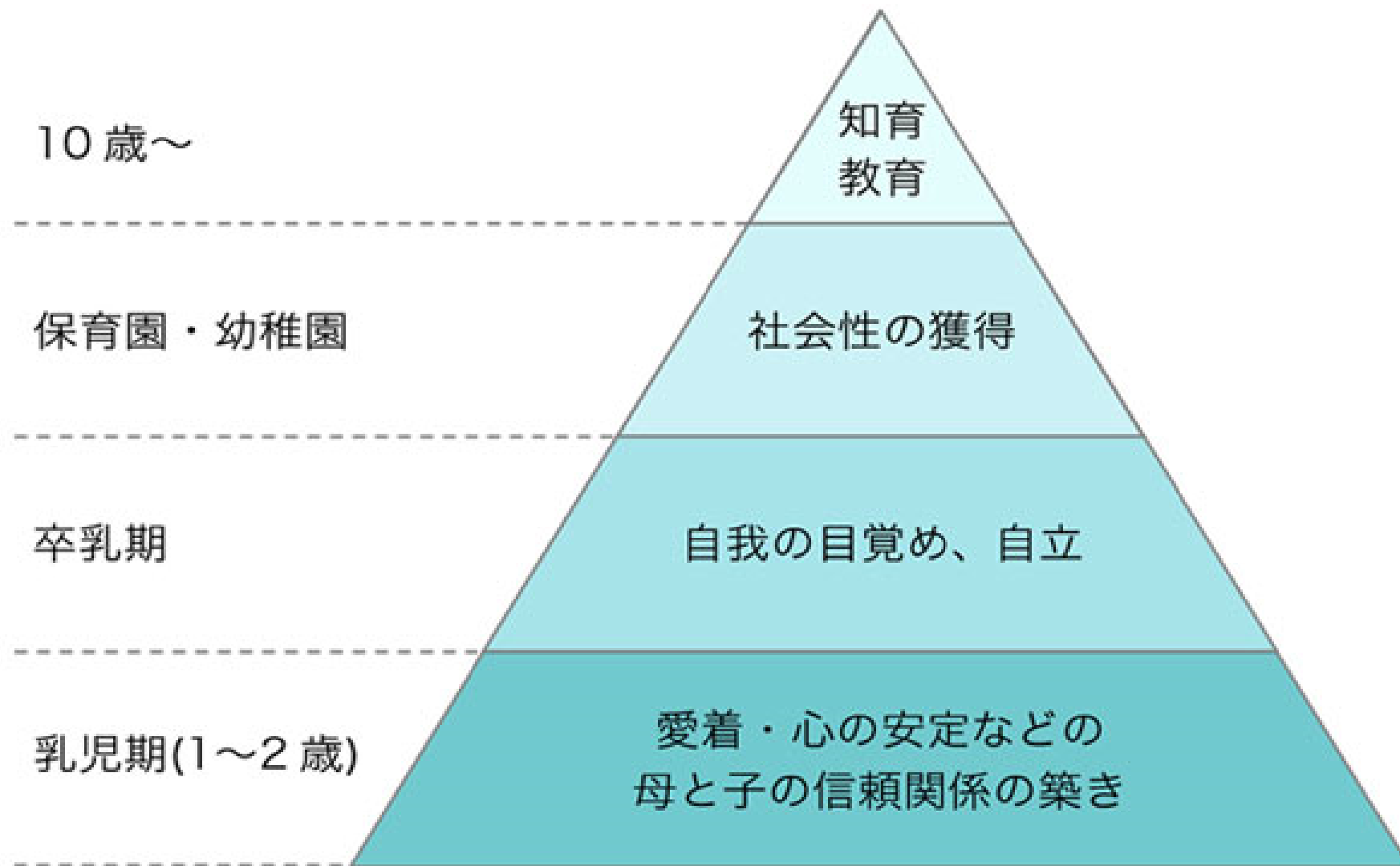
子どもを信じるとはどういうこと？

広国市民大学

吉川 眞

* 愛着 (attachment)

「愛着」は、子どもと養育者との間に“心の絆”が作られることで、基本的には、子どもの世話をする時間が長い母親との間に形成されます。



愛着とは、一般的に慣れ親しんだ者に心引かれる状態を意味しますが、乳幼児の場合、特定の大人から**継続的に愛され、大切にされることで深まる情緒的な絆**のことを言います。

子どもが親に愛着を持つことは、子どもが生きる上で必要なだけでなく、子どもの成長にも大きく関わってきます。

子どもがしっかりと特定の大人に愛着を感じることで、「人を愛する」、「人を思いやる」などの人間性の発達にも影響を与えるため、子どもの愛着を理解して応える必要があります。

特に、愛着が深まり、情緒が安定することにより人への信頼感が育まれることから、乳幼児期の発達における保護者との愛着の形成は重要だとされています。

* 愛着形成は子どもが生きるための手段

分では何もできない赤ちゃんは、誰かに自分を守ってもらわなければ生きていけないため、愛着の形成が必要となります。

もし、赤ちゃんが上手に愛着を形成できないと、誰も面倒をみてくれないかもしれません。

愛着の形成は、自分のお世話をしてくれる養育者の判別からはじまり、養育者に自分を守ってもらうために行う「愛着行動」を行うことで完成されます。

英国の精神科医ボウルビィが提唱した「愛着理論」では、生後6ヶ月頃から2歳頃までの間、養育者に対して愛着を示すとされています。

* 愛着システムの4つのタイプ

愛着が正常に形成されているかどうかは、子どもが次の4つのどのタイプの行動(愛着システム)を行うかを見ることで判断できます。

1) 安定型

母親から離されると不安になったり、母親の姿を探したりするが、母親が戻ってくると喜んで抱きつくなどの行動が見られる。

2) 回避型

ストレスや不安を感じても母親に愛着行動を起こさない、無反応のタイプ。

母親から引き離されても泣かないのが特徴で、母親の愛情不足が原因で起こる。

3) アンビバレント型

愛着行動が過剰なタイプ。

母親から引き離されて泣いても、いざ戻って来ると母親を嫌がるのが特徴。

構いすぎや放置など親の行動に一貫性がないため、安心感が持てないことが原因で起こる。

4) 混乱型

母親から引き離された後で混乱するタイプ。
母親が戻ってきた時、親にしがみついてもすぐに
離れるなどの矛盾した行動を見せるのが特徴で、
子どもへの接し方に問題がある可能性がある。

* < 愛着が形成されている子どもの特徴 >

- ・ 情緒が安定している
- ・ 周りへの信頼感が芽生える
- ・ 他者の気持ちが理解できる
- ・ 自信をもって行動できる

親と子どもとの間の愛着が深まることは、子どもの社会性の基礎となる「自己有用感」の獲得につながります。

* < 愛着が形成されない子どもの特徴 >

- ・ 自分に自信がもてない
- ・ 無気力になってしまう
- ・ 周りを信頼できない
- ・ イライラしやすい

「自分は守ってもらえないほどの価値がない人間だ」と否定的に考えるため、その結果、周りの人を信頼できなくなってしまう。 → 「愛着障害」